

# 平成24年度第1回埼玉県公共事業評価監視委員会次第

日 時:平成24年10月19日(金)

9時30分～

場 所:全電通埼玉会館あけぼのビル

501会議室

## 1 開 会

(1) 県側あいさつ

(2) 委員紹介

(3) 会長あいさつ

## 2 議 事

(1) 審議の進行について

(2) 県土整備部対象事業の審議

(3) 都市整備部対象事業の審議

(4) 現地調査案件の選定

## 3 閉 会

平成24年度 第1回 埼玉県公共事業評価監視委員会 出席者

会 長	かねこ あきら 金子 彰	東洋大学国際地域学部 国際地域学科教授
委 員	せきね まさと 関根 正人	早稲田大学理工学術院 創造理工学研究科教授
委 員	まつむら あつこ 松村 敦子	東京国際大学経済学部教授
委 員	みすみ もとこ 三角 元子	弁護士（埼玉弁護士会）
委 員	よだ ひでお 依田 英男	埼玉経済同友会幹事

## 平成24年度 第1回埼玉県公共事業評価監視委員会 会議要旨

## 1 県土整備部所管事業

## ①道路改築事業 一般国道122号 昭和橋について

委員：県北地域では交通量増加は見込めないと思うが、道路を整備する効果はあるのか。今後の需要についてどのように考えているのか。

事業課：当該道路は都内から群馬側に抜ける関東地域における幹線道路であり、広域の物流を支える道路であり、依然として需要が高い。

委員：よく橋りょうの前後で渋滞が起きるが、原因は起終点の信号である。この点に配慮した整備をお願いしたい。

事業課：信号処理は警察が所管なので、よく調整し、円滑になるように工夫したいと思う。

委員：少数主桁工法は桁を減らしてコスト縮減を図っているが、維持費はいかがか。

事業課：床版の耐久性が100年以上もつタイプを採用したり、また、塗装の塗り替え間隔を延ばすなど、ライフサイクルコストを考慮している。

委員：橋の架け替えを検討するとき、国道や市町村道との調整をするか。

事業課：それぞれと調整する。それ以外にも警察と調整する。

## ②街路整備事業 草加三郷線 柳島工区について

委員：これまでの歩道の状態と今後の整備方法を説明してほしい。

事業課：道路の脇に水路があり、その蓋を歩道として使っている。今回の事業で歩道を広げている。

委員：歩行者の安全度が向上するのでこの事業は有益であると思う。

委員：当該地域は、水害の発生しやすいエリアである。今回の水路工事だけで済む話ではなくて、柳島工区の前後の区間も含めた全体の浸水対策が重要だと思うが、いかがか。

事業課：浸水対策としては、浦和東京線のすぐ東側の辰井川がほぼ完成しているため、浸水対策は進んでいる。

委員：水路整備費用はこの事業に含まれているのか。

事業課：含まれている。

委員：水路整備による便益を道路事業に含んでもいいくらいである。

委員：この事業は時間の都合等で現地調査ができないので、第2回委員会で現地の状況や水路の状況が解るように説明してほしい。

## 2 都市整備部所管事業

## ①さきたま古墳公園、羽生水郷公園の共通事項について

委員：利用者数を教えて欲しい。

事業課：さきたま古墳公園は平成12年時点で46万人である。博物館は平成23年度で9万人である。

羽生水郷公園の水族館は平成23年時点で年間31万人である。

委員：平成12年以降の公園全体のデータは無いのか。

事業課：平成23・24年度に公園利用実態調査を実施している。利用者数は現在計測中である。

- 委員：利用状況の把握と定期的に利用者の声を聞くことが必要と考える。
- 事業課：指定管理者が利用者の一番近くにおり、地元の声をよく聞いている。今後も公園のコンセプトをしっかりと見極め、多様なニーズにあった公園整備をしたい。
- 委員：公園の便益算出は効用関数を使っており、多くの人にとって機会費用（公園以外のものがあつたらもっと良かったということ）を小さくすることが全体の効用を高めることにつながると思う。また、多くの人に共通の魅力があつたり、公園に興味を持ってもらうことが必要であり、そのような事を考えているので、良いと思う。
- 委員：早期の投資効果を発現するために、整備プログラムの工夫が必要である。部分供用に努め、完成した部分から早期に効果を発揮できていることが望ましい。

## ②都市公園事業 さきたま古墳公園について

- 委員：公園南西部の境界線が古墳の上を通っているのはなぜか。
- 事業課：市街地であり、古くからの民家が多く、そのエリアを整備するのが難しく、整備エリアから外しているためである。

## ③都市公園事業 羽生水郷公園について

- 委員：平成19年度再評価の意見を見ると、ムジナモが自生していない状況とあるが、自生していないのにムジナモ保護とは何か。
- 事業課：東北自動車道ができた時に水脈が切断され、ムジナモが自生できなくなった。現在は、他の地域で育てたものを池に放流しているが、浮き草であるため、自生させることが難しい。地元と連携し、自生できるよう努力している。
- 委員：子育て世代の利用増加などはどのように把握しているのか。
- 事業課：地元と意見交換する中で、遊具等の整備に関する要望をもらっている。また、小学生の教育の場として、遠足等の団体利用が多い。指定管理者制度になってから、宿題のお手伝いや水生生物を勉強する機会などが増えている。